

旧産炭地域の観光転換における社会的役割の意味生成

—元フラガールのライフストーリーに基づく分析—

肖 家瑋

北海道大学 大学院国際広報メディア・観光学院
観光創造研究コース



未来社会のあるべきかたち

- ◆ 観光まちづくりにおいて、当事者の経験や語りが尊重される地域社会
- ◆ 地域文化を消費せず、担い手の経験を通じて継承・発展する社会
- ◆ 観光振興と住民生活・文化が両立し、当事者が主体的に参画できる社会

問題意識

1

1950年代以降、旧産炭地域では石炭産業から観光業への転換が進められた。

2

観光転換を支えた当事者が経験をどう意味づけたかは十分に検討されていない。

3

スパリゾートハワイアンズを事例に、「フラガール」の意味生成を明らかにする。

石炭産業から観光業へ。その転換を担った人びとの「経験」に注目する。

研究方法



分析視点：

生活史の社会学

経験の意味は、ライフコースの中で再解釈・再構成される。

調査方法：

ライフストーリー・インタビュー
創世記～東日本大震災後までの異なる時代に活動した世代

事例概要

スパリゾートハワイアンズは、常磐炭礦が地域経済の再建と雇用維持を目的に1966年に開業した観光施設である。



いわき市を代表する施設へ発展し、「炭鉱のまち」から「フラのまち」への地域イメージ転換を支えた。フラガールは現在、地域文化と地域アイデンティティの象徴である。

調査結果

フラガール経験



ステージでの踊り
仲間との日々
厳しいレッスン
全国公演など

意味づけの多様性



- ・ 人生の最も輝かしい青春
- ・ 生活を支える技能
- ・ 組織を代表する責任
- ・ 新たな進路を切り開く契機
- ・ 生涯にわたる仲間とのつながり

意味を形成した要因

- 1 歴史的・社会的文脈
(創成期/震災後など)
- 2 組織内で担った役割
(リーダー/メンバーなど)
- 3 引退後のライフコース
(仕事/家庭/自己実現など)

本研究で分かったこと

1

フラガール経験は単なる職業経験ではない。

引退後も人生経験として意味づけられ続けている。

2

過去の経験が新たな意味が付与されていく。

役割経験の意味は、ライフコースを通じて語り直され、再構成される。

3

社会的意味と当事者の意味は異なる。

「フラガール」への意味づけは地域社会と当事者との間で必ずしも一致しない。

炭鉱のまちから、フラのまちへ。

地域の転換は、当事者が経験に与える意味によって支えられている。

